

SAMPLE



N-BLOOD
NISMO Communication Magazine

N-BLOOD

NISMO Communication Magazine
2022 / October
No. **96**

nismo

Produced by Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd.

王座獲得へ、視界良好

2022年のSUPER GTシリーズは、いよいよ最終局面へと突入する
Nissan Z GT500で戦う初年度、第6戦スポーツランドSUGOでは
天候の変化で荒れたレースを1-2フィニッシュで制する強さをみせた
泣いても笑っても、残るは1戦——
日産/NISMOは一丸となり、2015年以来の王座を目指し、全力で走り続ける



- 4 **2022 SUPER GT SERIES-GT500 CLASS**
Nissan Z GT500、連勝飾る
- 6 **SUPER GT WINNERS INTERVIEW 1**
平峰一貴
- 8 **SUPER GT WINNERS INTERVIEW 2**
ベルトラン・バゲット
- 10 **2022 SUPER GT SERIES-GT300 CLASS**
上位を席巻するGT-R
- 12 **SUPER GT GT300 CLASS**
GT300クラスの戦い方
- 14 **2022 SUPER TAIKYU SERIES**
GT-R勢、好調を維持し終盤戦へ
- 16 **FIA FORMULA E WORLD CHAMPIONSHIP**
世界3大陸をめぐる終盤戦
ロンドンe-Prixで両ドライバーが入賞
- 20 **MOTORSPORTS**
Paddock TOPICS
- 22 **NISMO DRIVING ACADEMY**
“Trial1”参加者に密着！
- 24 **NMC AUTECH OPERATION**
AUTECHブランドを知る vol.2
AUTECHブルーに込めたこだわり
- 26 **LEGEND SHOP REPORT**
日産／NISMO レジェンドが興したショップを訪れて
NordRing
- 28 **NISMO PRODUCTS**
NISMO パーツ最新情報
- 30 **SPECIAL IMPRESSION**
ロニー・クインタレッリ
- 32 **CLUB NISMO**
オーナーズインタビュー
リーフNISMO編
- 34 **NISMO FESTIVAL at FUJI SPEEDWAY 2022**
3年ぶり、23回目の開催!!
- 38 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**
ペンギンライター／タミヤ／EIDOLON
- 39 **PRESENT**
読者プレゼント

2022 SUPER GT SERIES GT500 CLASS

Nissan Z GT500、連勝飾る

第5戦で12号車が優勝、第6戦では3号車と23号車が1-2

いよいよ終盤戦へと突入する2022年のSUPER GTデビューイヤーながら、日産勢は全車が表彰台を獲得しドライバーランキングの上位を占めているZの強さ、チームの総合力を示す結果と言えるだろう



シーズン中盤戦で実力発揮 各車強さをみせる

2022年のSUPER GT中盤戦は、真夏の8月に行われた第4戦富士スピードウェイ、第5戦鈴鹿サーキットの2戦が450kmというレース距離で争われた。この2大会では給油をとまなう2回のピットストップが義務づけられており、速さとともに戦略も問われるレースが展開された。

8月6日～7日、富士スピードウェイで第4戦が行われ、気温22度/路面温度27度という涼しさのなかで行われた公式予選では、#24 リアライズコーポレーション ADVAN Z（佐々木大樹／平手晃平）が2番手を獲得した。7日（日）の決勝レースでは、スタートの直前に小雨が降ったが、#24 Zが3周目にトップに浮上し、レースをリードする展開となった。

#24 Zに続き、7番手からスタートした#12 カルソニック IMPUL Z（平峰一貴／ベルトラン・バゲット）は3番手に浮上。#23 MOTUL AUTECH Z（松田次生／ロニー・クインタレリ）も5番手にポジションを上げたが、マシントラブルによって後退を余儀なくされた。

#24 Zと#12 Zは上位のままレースを進めたが、2回のピットストップでいずれもドライバー交替を行った#24 Zに対し、#12 Zは2回目のピットストップでドライバー交替を行わず、#24 Zを逆転。#12 Zが2位、#24 Zは3位でフィニッシュした。

8月27～28日に開催された第5戦鈴鹿は、気温30度を越えた27日（土）の予選で#23 Zがポールポジションを獲得。Nissan Z GT500にとっては初めてのポールポジションとなった。#24 Zは6番手、#3 CRAFTSPORTS MOTUL

Z（千代勝正／高星明誠）は9番手。前戦2位の#12 Zは、全車がほぼ1秒以内に収まる僅差のQ1を突破できず、予選15番手に終わった。

28日（日）の決勝レースでは#23 Zが序盤をリード。#24 Zはトラブルで後退してしまうが、好ペースを維持してポジションを上げたのが#12 Zだ。49周目に起きたGT300車両のクラッシュでセーフティカーが導入されたタイミングも味方につけ、さらにポジションを上げて、#23 Zの背後に迫った。

65周目、#12 Zは#23 Zをオーバーテイクしようと果敢に隙をうかがったが、あわや接触というほど接近。#12 Zは接触を避けるためコースを外れることに。無事に#12 Zはコースへと戻ったが、フロントグリルに草が詰まってしまったため、その後はエンジンを労りながらもペースを保った#12 Zがトップに立ち、今季初優勝。

Round 4 FUJI GT 450km RACE

12号車と24号車が表彰台を獲得

GT500 Class (99Laps)				
8月7日 富士スピードウェイ 天候：晴 コンディション：ドライ ファステストラップ：1'29.948 #37 KeePer TOM'S GR Supra サッシャ・フェネストラズ				
Pos	No	Machine/Drivers	Time / Behind	
1	37	KeePer TOM'S GR Supra サッシャ・フェネストラズ/宮田 莉朋	2:34'24.270	
2	12	カルソニック IMPUL Z 平峰一貴/ベルトラン・バゲット	7.542	
3	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z 佐々木大樹/平手晃平	12.863	
12	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z 千代勝正/高星明誠	1Lap	
14	24	MOTUL AUTECH Z 松田次生/ロニー・クインタレリ	10Laps	

Round 6 SUGO GT 300km RACE

波乱のレースで1-2フィニッシュを達成

GT500 Class (84Laps)				
9月18日 スポーツランドSUGO 天候：曇/雨 コンディション：ドライ/ウェット ファステストラップ：1'13.194 #38 ZENT CERUMO GR Supra 立川祐路				
Pos	No	Machine/Drivers	Time / Behind	
1	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z 千代勝正/高星明誠	1:58'41.824	
2	23	MOTUL AUTECH Z 松田次生/ロニー・クインタレリ	9.114	
3	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT 笹原右京/大湯都史樹	46.72	
5	12	カルソニック IMPUL Z 平峰一貴/ベルトラン・バゲット	1Lap	
14	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z 佐々木大樹/平手晃平	3Laps	



第4戦富士で勝利に届かなかった悔しさを、第5戦鈴鹿で見事に晴らしたTEAM IMPUL。星野一義監督とドライバーの笑顔が印象的。

ランキングもトップに浮上した。追い上げをみせた#3 Zが4位、#23 Zは5位でフィニッシュした。

真夏の450kmレース連戦を経て迎えた第6戦は、スポーツランドSUGOが舞台。このレースから最終戦のモビリティリゾートもてぎまでは、レース距離300kmでの戦いとなる。9月17日（土）の公式予選では、#23 Zが3番手を獲得。#3 Zや#12 Zはサクセスウェイトが厳しく、後方グリッドから上位を狙った。

18日（日）の決勝は、スタートから10周が過ぎようかという時間に雨が降り始めた。路面は一挙にウェットコンディションに転じるが、この状況でミシュランのウェットタイヤを装着した

Round 5 SUZUKA GT 450km RACE

12号車が予選15番手から今季初勝利

GT500 Class (77Laps)				
8月28日 鈴鹿サーキット 天候：晴 コンディション：ドライ ファステストラップ：1'48.910 #23 MOTUL AUTECH Z ロニー・クインタレリ				
Pos	No	Machine/Drivers	Time / Behind	
1	12	カルソニック IMPUL Z 平峰一貴/ベルトラン・バゲット	2:35'39.339	
2	17	Astemo NSX-GT 塚越広大/松下信治	6.63	
3	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra 関口雄飛/中山雄一	7.747	
4	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z 千代勝正/高星明誠	8.257	
5	23	MOTUL AUTECH Z 松田次生/ロニー・クインタレリ	13.747	
10	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z 佐々木大樹/平手晃平	1' 30.122	

Round 7 AUTOPOLIS GT 300km RACE

24号車がポールポジションから3位表彰台を獲得

GT500 Class (65Laps)				
10月2日 オートポリス 天候：晴 コンディション：ドライ ファステストラップ：1'35.854 #24 リアライズコーポレーション ADVAN Z 佐々木大樹				
Pos	No	Machine/Drivers	Time / Behind	
1	17	Astemo NSX-GT 塚越広大/松下信治	1:54'02.414	
2	100	STANLEY NSX-GT 山本尚貴/牧野任祐	13.162	
3	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z 佐々木大樹/平手晃平	13.453	
6	12	カルソニック IMPUL Z 平峰一貴/ベルトラン・バゲット	20.348	
7	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z 千代勝正/高星明誠	31.560	
14	23	MOTUL AUTECH Z 松田次生/ロニー・クインタレリ	2Laps	



第6戦SUGOで#3 Zは今季2勝目を獲得。ミシュランの強さと戦略が引き寄せた勝利と言える。#23 Zも開幕戦以来の表彰台だ。

#23 Zと#3 Zの2台は、ハイペースで順位を上げ、1-2体制を築くことに成功。

その後も雨は降ったり止んだりを繰り返し、路面コンディションも二転三転していくが、ビットインのタイミングを合わせ切った#3 Zが先行し、今シーズン2勝目を飾った。2位には#23 Zが入り、Z GT500にとっては初めての1-2フィニッシュを飾った。また、燃料流量リストラクターが最も厳しい3段階目に入っていた#12 Zも追いつけて5位に。

第6戦を終え、#3 Zの千代/高星がランキング首位、#12 Zの平峰/バゲットが2位、#23 Zの松田/クインタレリが3位と、日産勢がチャンピオン争いでトップ3を占めている。

第7戦オートポリス #24 Zが3位表彰台

第7戦オートポリスでは、#24 Zが今シーズン2度目となる表彰台フィニッシュを飾った。予選でQ2を担当した佐々木は渾身のアタックで自身初のポールポジションを獲得。翌日の決勝レースでは、佐々木がスタートドライバーを務め、序盤から後続を引き離して平手へとバトンタッチ。ピットの際にライバルの先行を許してしまっただ、最後まで諦めない走りで3位表彰台を獲得。#12 Zは6位でランキング2位、#3 Zは7位でランキング1位を維持したまま最終戦に挑む。



スタートドライバーは佐々木。「とにかく攻めた」との言葉どおり、後続を引き離し平手にバトンタッチ。



🍀 SUPER GT WINNERS INTERVIEW 1 🍀

平峰一貴

Kazuki Hiramine

新たなチームメイトを迎え、新たな車両で戦う2022年シーズン

第5戦鈴鹿では、予選最後尾から劇的な勝利でキャリア通算2勝目を挙げた
ランキングトップに立った後も、アグレッシブにレースへ挑む

コンビネーションに不安なし 速く走り、勝つための想いは同じ

N-BLOOD 編集部（以下 NB）：まずは今シーズン、第5戦までのレースを振り返っていかがでしょうか。

平峰一貴（以下平峰）：前半戦は速いのには勝てないレースが何度か続き、『ここは耐えなければならぬ』と思っていました。

NB：何度か表彰台も獲得できているなかで、特に悔しい結果なのが、トラブルでリタイアしてしまった第3戦鈴鹿だと思います。そのレースでは3号車が優勝しました。

平峰：あのレースでは、予選の段階から3号車が勝ちそうな印象がありました。僕らも自分たちができることをしっかりやって、ポイントを獲得帰ろうと思っていましたが、決勝では1周目

でレースが終わってしまいました。日産陣営のチームみんながZ GT500の初優勝を獲りにいきたくて思っていたんですが、トラブルで何もできず、悔しかったですね。

NB：Nissan Z GT500について、ここまでの印象はいかがですか？

平峰：最初のテストの時からやるのがたくさんある印象でしたが、それが実現できれば良いものになるという確信がありました。大変な作業だったと思いますが、日産/NISMOがとても良いクルマを作ってくれた印象ですね。タイヤやドライビングスタイルなども研究して、かなり合わせ込めるようになってきたと思います。

NB：NISSAN GT-R NISMO GT500と大きく違うところはありますか？

平峰：Zの方が前後バランスが良くなっています。GT-Rはフロントのダウンフォースが強い印象が

ありましたが、Zでは前後バランスが後ろ寄りになったことで、高速コーナーも低速コーナーでも、リヤが安定するようになったと思います。

NB：コンビを組むベルトラン・バゲット選手は、以前のインタビューでも言っていたように、もともとお知り合いだったそうですね。

平峰：JLOCに所属している頃にチームメイトだったマルコ・マベッリ選手とバゲット選手が知り合いで、ヨーロッパではライバル関係でもあったそうです。彼に紹介してもらってからなので、2018年からの付き合いですね。

NB：今季コンビを組んでみて、あらためて知るバゲット選手の側面はありましたか？

平峰：性格はよく知っていたのですが、あらためてすごいと思った点は、クルマからのインフォメーションを引き出す能力や、セッティングを正しい方向に導くためのエンジニアとのコミュニケーション内容ですね。またチームメイトのドライビングに対しても協力的です。

NB：ふたりのドライビングスタイルは似ていますか？ あるいは組むことによってなにか変化がありましたか？

平峰：細かい違いはありますが、バゲット選手もアグレッシブです。バゲット選手は、ブレーキ踏力が強く、タイヤの温め方が上手いのですが、ドライビングのベースそのものは変わりません。お互いの良いところを見出し、どういう方向に進めたら速く走れるかを、協力しながら見つけられていると思います。

NB：今季は平峰選手がQ1を担当することが多いのですが、どのように決まっているのでしょうか。

平峰：現場で監督が調子や状況を見ながら決めています。またレースのスタートドライバーについては、バゲット選手がスタートが速く、シンプルに“強い”ということに尽きます。予選で何番手だろうが必ず抜いてきてくれるので、チームの信頼は厚いですし、僕も心強く思っています。

まさかのQ1敗退から 鈴鹿で再びのテール・トゥ・ウィン

NB：第3戦でリタイアしてしまった鈴鹿を、第5戦で再び走ることになるわけですが、予選Q1落ちという結果となってしまいました。何が要因だったのでしょうか。

平峰：自分としては出し尽くした予選でした。トップから15番手までが1秒以内に入る僅差だったということもありましたが、予想よりもライバルの方が伸びしろがありました。計算上、サクセスウェイトの影響もあってQ1通過は難しいかもしれないとエンジニアからは伝えられていましたが、それでもなんとかQ1を突破できるように頑張っていました。

NB：それが実際は15番手という結果でした。

平峰：『なんやそれ』って感じてしたね（苦笑）。僕がQ1を終えた後、チームはいつも無線で順位を教えてくれるのですが、最初は無線が来ませんでした。尋ねると『9番手』と言われました。『通らなかったけど、予想よりは前だな』と思っていたら、ライバルがアタックを終えた後に『15番手』と言われて。思わず『うそやろ！』と言ってしまいました。それくらいショックでしたね。

NB：決勝日の朝は、バゲット選手が励ましてくれたそうですね。

平峰：どういうレースになるか……という話をふたりでしていたのですが、『一昨年、23号車は最後尾から優勝しているんだから、一緒に頑張ろう』と言ってくれました。

スタートはバゲット選手が担当でしたが、まず1周目に目の前でスピンした14号車をよく避けられたなと思いました。その後、37号車を抜いてくれて僕も嬉しかったですし、チームにとっても良い刺激になりました。

NB：平峰選手はレース終盤に表彰台圏内まで上がり、23号車を追う展開になりましたが、立体的交差の先で一時コースアウトするシーンがありました。状況を教えてください。

平峰：デグナーのひとつ目を曲がった時に、23号車の松田次生選手がGT300車両に引っかかったのが見えたので、立ち上がりで抜こうと思いました。絶対に負けたくなかったので鼻先をグッと入れていきましたが、松田選手がこちらに寄ってきてしまったのです。『このままでは当たってしまう』と判断して、僕はグリーンに避けるかたちになりました。

NB：この件について、レース後になにか松田選手と話をしましたか？

平峰：すぐに電話がきて『今日はおめでとう。デグナーのことゴメンね』と言ってくださったので、

『ぜんぜんいいですよ。レースですから』と伝えました。逆に気を遣わせてしまっ申し訳ないくらいです。

NB：その後、フロントグリルに草がたくさん詰まっていたんですが、何か影響は感じましたか？

平峰：何周か経った後に、水温と油温のアラートが点いてしまいました。その前にチームには無線で『クルマに問題ない？』と聞いていたのですが、アラートが点いたのでまずいなと思いましたし、チームからはエンジンを守るようにとの指示がありました。トップの17号車を抜いた後、ストレートに戻ってきた時に『勝てるかもしれないけど、クルマがもつかな？』とチェッカーを受けるまではとても怖かったです。レース後に見たら、たくさん草が入っていて驚きましたよ（苦笑）。

NB：ゴール後、星野一義監督が来てくれました。どんな言葉をかけてもらいましたか？

平峰：腕をガチっと掴んで『本当に良くやった』と言ってもらいました。監督もウルツときていたので、あまり多くは話しませんでした。表情と短いひと言に、色々な思いが詰まっていると感じましたね。

ランキング首位でも 変わらず“攻め”の姿勢で臨む

NB：今季、星野一樹さんがチームに加わっていますが、雰囲気は変わりましたか？

平峰：チーム力とクルマに対する要求がとても上がっています。星野一義監督がいるので雰囲気はすでに引き締まっていて、高い緊張感がありますが、それをさらに底上げするという意味で、セッティングもドライバーの取り組み方についても

色々な意見を言ってくれます。とにかく総合的に、チームの土台が強くなった印象がありますね。

NB：一樹さんは無線でも話したりするのでしょうか？ 接戦になった時は無線で叫んでいそうな印象もありますが。

平峰：無線で叫ぶのは我慢しているみたいです（笑）。でもレースで良い結果が残った後などには『ありがとう』と声をかけてくれます。

NB：第5戦までを終えて、ランキング首位に立って残り3戦を迎えます。今後に向けて課題などはありますか？

平峰：鈴鹿で優勝できて、明けた月曜までは『良かった』と思っていましたが、冷静になってみると、サクセスウェイトが軽いクルマや、少し重いけど勝負ができるライバルもまだまだいます。ランキング首位にはなりましたが、一瞬でひっくり返される状況だとも思っています。

GT500でチャンピオンが狙える位置に来たのはキャリアで初めてですが、攻めの姿勢は絶対に変えるつもりはありません。どんなバトルでも挑んでいきたいと思っています。ただ紙一重のところで、やっていいこと、悪いことを一瞬で判断できるように集中していきたいですね。

NB：最後に、Club NISMOの会員にメッセージをお願いします。

平峰：いつも応援していただきありがとうございます！ 残り3戦で12号車はランキングトップに立っていますが、守りに入るつもりもないですし、きっちりレースを戦い、さらにポイントを積み重ねることができるよう気を引き締めていきたいと思っています。引き続きご声援よろしくお願います！

攻めの姿勢は絶対に変えるつもりはありません どんなバトルでも挑んでいきたい



レース後、喜びを爆発させる平峰。これまでの鬱積を晴らすかのように、力強いガッツポーズを何度も繰り返した。